

大学生の進路意思決定遅延研究から

若松養亮 (滋賀大学教育学部)

はじめに

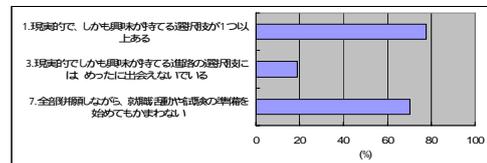
- 研究テーマは大学生の進路未決定
Osipow, S. H. らを中心に米国で発展
- 意思決定の遅れの背景要因や実情を
遅延者の理解や支援、予防に
- 対象は文科系中心の学部生3年生380名
調査時期は2003年1月
調査時点での未決定を「遅延」と見なす

定義や尺度

- 「決定者」の定義
「もう迷わず、これ以上具体的に詰めるつもりがない」選択肢を1つ以上有する人
380人中、176名(46.3%)が遅延者
- 主な尺度
Gati et al. (1996)によるC.D.D.Q.から改変
未決定者の「状態」を記述する項目
有する具体的な「困難さ」を測る項目

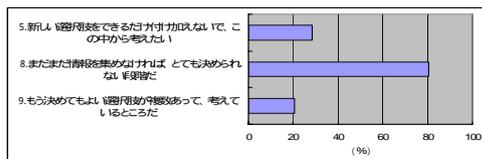
遅延者が置かれている状態(1)

- 彼らはどんな状態でとどまっているか?
- 遅延者を対象に11項目×2件法で尋ねた
- 7割が興味と現実性がある選択肢をもつ



遅延者が置かれている状態(2)

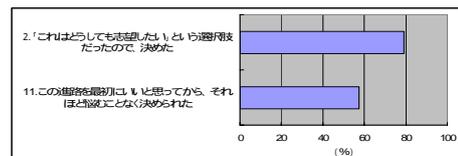
- 「このなかから考えたい」は3割に満たない
- 「まだまだ情報を集めなければ」も8割



選択肢はありながらフィット感が不十分

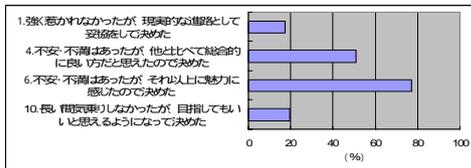
決定者はなぜ決められたのか(1)

- 反面、決められた人がいるのはなぜか
- 決定者を対象に11項目×2件法で尋ねた
- 8割が「どうしても」という進路に決めた



決定者はなぜ決められたのか(2)

- 妥協して決めた人は少数
- 有する不安・不満以上の魅力で決意



強く惹かれる選択肢に出会えるかがカギ?

7

遅延者の探索行動を探る

- より良い選択肢がないなら探索行動が必要
- 13項目に5件法で評定させた

Stumpf et al. (1983)のC.E.Sを改変したもの

- 因子分析による類型化

.内省的 例) どういう人間かをじっくり考えてみた

.情報収集

例) 特定の職務や会社について情報を手に入れた

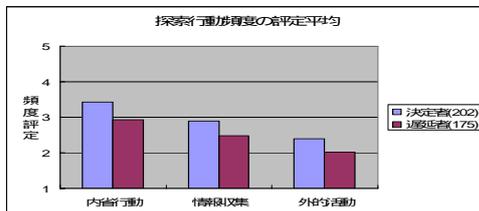
.外的活動

例) ある役割を好きになれるか試しについてみた

8

遅延者は探索行動をしているか

- 全因子で遅延者は決定者より頻度小
- 評定3を越えるのは内省的な行動のみ



9

遅延者の困難さに着目する

- 彼らが有する困難さから阻害の様相を知る
- 具体的な困難さを40項目×6件法で
- 8つの因子に類型化

決定者には決定前を回想して評定させる

.能力に関する戸惑い

.適合へのこだわり

.選択方法の迷い

.実現可能性の不安

.興味等の模索

.実情への不安

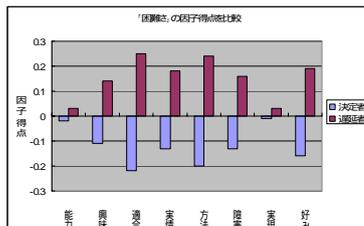
.現実的な障害

.好みに関する懸念

10

決定を阻害している困難さとは

- 決定or遅延で大きく異なる「適合」と「方法」
- 両群で差がない「能力」と「実現」



11

遅延者は一枚岩か

- 遅延者の類型化変数として重要なもの2つ
indecisiveness

強い不安と領域を問わない優柔不断さ

困難さに悩む程度と交絡するので略

快適さ (comfort; Jones & Chenery, 1980)

遅延者では現状の評価的感情、危機感と関連

決定者でも意思決定の満足や確信と関わる

12

「快適さ」を測定する

- C.D.P. (Jones, 1989)を改変した3項目
これと関連する困難さを重回帰分析で
私は卒業後の進路について今まで考えてきた
ことや決めてきたことに納得しており、すっきりし
た気持ちでいられる
私は卒業後の進路選択について心配していな
い
私は、卒業後の進路を考えたり決めたりするこ
とに、とても苦労させられている(させられた)

13

「快適さ」と関連する困難さとは

- どんな困難さに悩まされると不快になるか
快適さ評定を目的変数とした重回帰分析
- 遅延者は「実情」と「実現可能性」で有意
(すっきりした気持ち)は「興味」と関連
- 決定者では
(心配してない)は「方法」と「実現可能性」
(苦労した)は「興味」と「方法」

14

まとめ(1)遅延者の大勢は...

1. 選択肢はあるが、フィット感を持たず...
2. フィット感 快適さ、と捉えると
興味、実情、実現可能性がカギか
3. 探索行動は内省的なものが中心
情報収集や外的な活動に至らない
狭い選択肢と少ない情報にもかかわらず、
動き出せない。非生産的な意思決定行動。

15

まとめ(2) 決定者の大勢は...

1. (たまたま)強く惹かれる選択肢に出会い、
2. 不安や不満を凌駕する魅力で決定へ
考え方や決め方にあまり困らない
フィット感も十分感じている
3. 興味が明瞭でない人は、苦労することに
興味と合う選択肢と出会うことがカギ
その他の点は吟味せずに決めていくフシ

16

終わりに...宣伝

教育心理学会にて自主シンポジウム

就職と自己 - 「自己分析」という迷宮 -

企画者: 若松養亮・下村英雄
話題提供者: 下村英雄・山田剛史(京都大学)
指定討論者: 佐藤有耕(筑波大学)
上瀬由美子(江戸川大学)

日時: 2005年9月18日(日) AM9:30 ~ 12:00
場所: 浅井学園大学 734教室

17